



おちほ

第101号 令和8年3月15日 発行 社会福祉法人 椎の木会 発行者 太田 正 則
TEL 0748-77-2299 FAX 0748-77-5588 <https://ochiho.noor.jp/>

オータムコンサート 2025



十一月二日にオータムコンサートが行われました。今年で2回目となるこの行事、今回は「りっとうアンサンブル和奏（わかな）」の皆さんに来ていただきました。吹奏楽による素敵なアンサンブルで、みんな大好き「ジブリメドレー」から、懐かしいの「昭和歌謡」、ドラマや映画のテーマソングなどなど、耳にすれば自然に口ずさんだり、体を動かしてしまいそうな曲の演奏です。しかし、「しまいそうな」で終わらないのが落穂寮の利用者さん達です。実際に曲に合わせて唱ってみたり、立ち上がって体を揺らしたり、手持ちの楽器でリズムを刻んだりとノリノリのコンサートとなりました。一緒に参加していただいたご家族の方、職員も楽しい時間を過ごすことが出来ました。ありがとうございます。

さて、お楽しみはコンサートだけではなく、今年もキッチンカーが事務所に登場！（詳細は男子棟のページへ）楽しい行事に華を添えてくれました。

今回もオータムコンサートで秋のひとつに楽しい時間を過ごしていただけたのではないかと思います。また来年もお楽しみに！

重度知的障害者支援における 生産性の向上とは

理事長 太田 正 則

新しい年を無事に迎えることが出来ました。皆さま、どうぞ今年もよろしくお願い申し上げます。

さて、今年はどのような年になるのでしょうか。昨年は最低賃金が全国で千円を超え、一般企業では物価上昇の影響も受けて5%の昇給がなされるところも見られています。一旦縮まった福祉分野との賃金格差は再び広がり、福祉分野で働く人が減少しています。更には高齢分野の訪問介護報酬が引き下げられたことによる倒産件数が激増し、在宅生活の継続が不可能に近い状態に追い込まれています。そのような状況から、今年、臨時報酬改定が行われ、処遇改善加算が増額されます。一般企業との賃金格差が縮まるには程遠い額ですが、改定されないよりはましと言ったところでしょうか。ただ、中小企業では、色んな不安要素が絡むことから物価上昇分を商品価格に反映することが難しいこともあり、福祉業界と同様賃上げに苦慮されているようです。少子高齢化の影響を受けてどこも人材確保に苦慮し、その確保対策としてはどうし

ても昇給の実施が必要になります。そこで検討される事が「生産性の向上」になります。この生産性とは、労働力や資本の投入量(コスト)で、利益や生産量(成果量)を割ることで得られるものになります。つまり如何に少ない人数で沢山の物を作り出すことができるか、良いサービスを提供することができるか、を追求することで、生産性の向上を図ろうというものです。来年度の報酬改定では、一部にこの労働生産性の向上を要件としたものが含まれるようなのです。

当法人が支援している方のほとんどは重度または最重度の知的障害を持つ方が多く、更には強度行動障害を併せ持つ方がほとんどです。その方一人一人の性格はもちろんのこと、障害からくる特性や、これまでの生活環境からくる歪みや拘りなど、同じ対応で済ませられない人など一人もおられません。そしてその方々が望まれる生活も一人一人違うのです。では、そこに従事する職員(労働者)に求められることは何でしょうか。知的障害とは何なのかを理解できる教養を

持つことはもちろん、知的障害を伴う別の障害やその特性についての知識や対応方法を身に着けた支援力です。そして何よりもっとも身に着けなければならない事は、目の前にいる方が発信されている事(要望)に気付くことができる受信能力です。この能力は日々同じ空間、同じ時間、同じ出来事を共有し、そこから見える物事を同じ目線で見ることで感情が共有されて培われていきます。福祉現場で得られる利用者の満足(成果物)は、関わる人が多くの時間をかけて培った能力が発揮されて初めてその満足(成果物)を得ることができるのですが、そのような人材を短期間で育てることや、そのような人材に代わるAIを創り出すことが現実的であるように思えません。

昨年、滋賀県民にとって大変うれしい出来事として、長浜市出身の坂口志文氏がノーベル生理学・医学賞を受賞されました。同時に科学賞を受賞された北川進氏もそうですが、お二人ともとても長い年月をかけて研究され、この度の受賞に至っておられます。比べるのは変かもしれませんが、コスバやタイパと言われるように効率の良さを求める社会は、人との関係に時間と労力をかけないため、お互いが浅いところでしか理解できず、些細なことで行き違いやすれ違いが起き、お互いを排除

してしまうような言動を繰り返し、挙句の果てに本当に排除してしまう事態になっているのではないのでしょうか。

最近利用者さんと過ごす日が多くあります。その利用者さんとは過去の関りから、当時と同じように接するのですが、中々その時と同じような反応が見られず、その方が何を望まれているのかを受信する事が出来ませんでした。ある日の午前中にも同じように関わっていたのですが、その日の午後にご家族の面会があり、一時間ほど過ごされた後、再び同じように関わらせて頂きました。すると一転して嬉しそうに笑顔を見せながら笑い声をあげておられました。その方が求められていたものは私には提供できるものではありませんが、嬉しかったことを表現されている空間と感情を共有することで、ご家族とこのような機会を多く持つことができるようにすることが必要であり、それを望まれているのだということを改めて実感しました。利用者さんから求められる成果物は、このような体験の積み重ねで得られます。

満足が得られる支援をたくさんご利用者さんに提供するための生産性向上は、かわる多くの方にこの実感を味わっていただく事で達成できます。

(2026.1.22)

「経験することの

大切さ」

施設長 三浦奈穂子

日頃より施設ご利用者をはじめご家族、地域の皆様、その他多くの方々にも多大なるご支援とご協力を賜り、心よりお礼と感謝を申し上げます。

さて、年度末が近付き来年度に向けて研修の振り返りや次年度の計画を行なう時期となりましたが今年度は利用者支援とチームワーク向上に活かすため、年間4回のアンガーマネジメントや適切な伝え方（アサーティブコミュニケーション）の研修を外部講師に来ていただき実施してきました。その最終回が二月にあり、年度当初と比べると、積極性や研修時の職員の学びの姿勢の変化が見られ、個人的には嬉しく感じました。学びの内容を実践に反映できているかは個人差があるかもしれませんが、「人との向き合い方の基本」を学ぶ機会を得て、職員が共通認識を持つことで他者理解が深まり

今後の協力や助言がしやすくなり、利用者支援にもより良い影響が反映されることと思います。

職員が研修という学びの機会をいただいたように、ある利用者さんが自閉症実践セミナー研修で支援を受ける側のモデルとなられ、実際に作業に取り組まれる機会がありました。見ず知らずの外部の方たちの中で一日半の時間を過ごされたのですが、その中で25年近く見て来た私の持つ印象とは違った姿を見ることが出来ました。普段の施設内のご様子では支援者との関係性を重視されている様子があり、見知らぬ方や初めての方には緊張され近寄っていくことがありません。よって新しく入職される職員は、いわゆる試し行動と言われる洗礼を受けながら本人と信頼を築いてきました。しかしそんな方が、初めて会う人に半日程で心を開きリラックスされた

様子を見せておられた姿に、かなりの衝撃を受け驚かされました。

ご本人がどれだけの力を持っておられるのか、どのように提示すると理解ができるのかを正しくアセスメントし、ご本人が不安を感じない様スケジュールを使って視覚的に見通しを立てていただき、作業に関して正しく方法を伝え、支援者の介入がなくても「できる」「成功する」環境を作ることできるとご本人もストレスなく活動することができたため、前述の様子が見られたのだと思います。

結果だけを見て判断したり評価するのではなく、支援の基本をおさえ、支援を組み立てる上で本人の強みを活かした作業に加えてどうすれば一人で実施が可能なのかの視点を大切にしなければならぬのですが、まずは本人が持っている力を正しく捉えることができているかどうかと、適切な方法を伝えることで一気に作業能力が上がる様子や正しい経験を積みむにつれ明らかに新たな技法を獲得し集中して取り組まれる様子を目にして、今までご本人の学びの機会を作ることが出来ていなかった反省でいっぱいになりました。

専門的な視点で組み立てられた支援を一日半受け、作業の中では自分の得意な作業を見出され、支援者以上に綺麗に端を揃えて紙を折ることで、封筒に紙を入れる一連の封入作業までお一人で仕上げることができていました。

一日半のストレスがどのように表れるのか当初は不安を感じていましたが、その時に自分のすべきこと分かり、また、自分の想いを伝えやすい本人がストレスを感じなくて済む支援を受けたことで、むしろ普段のご様子より表情も柔らかく過ごせることができており、今までの「試し行動」などは人への緊張ではなく、初めてのことに對する適応方法が明確でない部分に對しての不安の表れであったんだと気付かされた機会でした。

地域移行の確認や意思決定支援など重度の知的障害のある方への支援においてあらゆる工夫をしながらご本人の思いを探っていくことになりましたが、その方法や支援も含め、それらを適切に経験（本人が伝わったことが実感できる）できる学びの機会を作っていくことが支援者に求められていると認識して、日々の生活支援を提供して行こうと思います。

男子棟



一緒に歌ったよ！

岡井さんとノリノリの利用者さん

クリスマスコンサート

十二月二十三日にクリスマス会を開催しました。今回は落穂寮の職員研修でお世話になった講師の岡井里佳さん(8ページを参照)が音楽好きで自ら演奏もされるとの事で、今回素敵なお縁でクリスマスコンサートを開催、ピアノ演奏と歌を披露していただきました。クリスマスソングや赤いスイートピー等利用者さんの世代に合った歌に、座って体を揺らしながら聞かれている方や、前に行きタバリンや鈴などを持ってリズムに乗っている方、マイクを持って一緒に歌っている方等それぞれ自身にあった楽しみ方で参加していました。特にクリスマスソングが流れると大きく体を使って楽しさをアピールされていました。マイクを持って歌われている利用者さんも職員が思っている以上に歌が上手い、という新たな発見もあり、職員も一緒に楽しませて頂きました。コンサートでは、前に出ておられる利用者さん達は汗だくになりました。コンサートが終わり、棟へ戻るとサントさんからのプレゼントをもらっておられました。プレゼントをもらうとすぐに居室で開けて遊ばれていました。楽しい時間はあっという間でした。が今後も楽しんで貰える行事を考えたいと思います。



もっと欲しい！

おいしい!!

キッチンカーが来た

十一月二日にオータムコンサートが開催されました。男子棟の皆さんはコンサートは午後から。午前中はキッチンカーでの出店販売が行われ各々が席に座りポテトや唐揚げを食べておられました。引換券を握りしめキッチンカーの前に今か今かと待ち焦がれる利用者さんのご様子に職員として参加できたことをとても嬉しく感じました。その日はご家族の方がお越しになられたこともあり利用者さん達の表情には溢れんばかりの笑顔が見られました。午後のコンサートが終わった後もお楽しみとしてベビカステラとジュースの提供があり、いつものおやつとは違う味に目を輝かせておられたのが印象に残っています。今回のオータムコンサートを通して利用者さんたちの楽しんでいらっしゃる様子を見し、こういった行事ごとを大切にしていかなければならないと感じたと共に自らも、利用者さん達がいきいきと過ごせる日常の提供ができるよう、より一層と毎日の支援を頑張ろうと思う良いきっかけにもなりました。

女子棟



おいし〜♡



いただきます



あま〜い♪



クリスマスパーティー・えびのサラダ・オニオンスープ・パン・オレンジ」と豪華メニューが登場！みんなですろって「いただきます」をしました。その後は、すぐに完食してしまいう人、マイペースに楽しむ人、それぞれの楽しみ方でクリスマスランチを堪能されました。おやつは可愛いサンタさんがデコレーションされたケーキでした。口の周りに生クリームを付けながらも皆さん美味しそうに召し上がられていました。最後はもう一つのメインのイベント、サンタさんからのクリスマスプレゼントです。ここでも皆さんプレゼントを手に笑顔を爆発させておられました。



今年も一年よろしくお願いたします。



二〇二六年最初のイベントは女子棟恒例の初詣に行きました。近所の上葦穂神社まで行きましたが、工事中の為なのか神社の中まで入ることが出来ませんでした。どうしようかと困っているとお参りに来られていた方が「わき道を通って行くと賽銭箱が置いてあるのでお参りできるよ」と教えてくださり、無事にお賽銭をしてお参りすることができました。二〇二六年も怪我や病気もなく楽しい一年であります様に。

Xmas

クリスマスパーティー・えびのサラダ・オニオンスープ・パン・オレンジ」と豪華メニューが登場！みんなですろって「いただきます」をしました。その後は、すぐに完食してしまいう人、マイペースに楽しむ人、それぞれの楽しみ方でクリスマスランチを堪能されました。おやつは可愛いサンタさんがデコレーションされたケーキでした。口の周りに生クリームを付けながらも皆さん美味しそうに召し上がられていました。最後はもう一つのメインのイベント、サンタさんからのクリスマスプレゼントです。ここでも皆さんプレゼントを手に笑顔を爆発させておられました。

初詣



多機能棟 クリスマス会



今年も、利用者さんみんながとても楽しみにしているクリスマス会を開催しました！
午前は、ホールに集まって、職員が用意したプリンやフルーツ、チョコレートなどを、思い思いに盛り付け、クリスマスケーキ作り！
午後は、多目的ホールで行われたクリスマスコンサートを楽しんだ後、多機能棟に戻り、クリスマスケーキを美味しくいただき、楽しみにしていたクリスマスプレゼントを受け取り、早速開封♪
色とりどりにラッピングされた袋から出てきた、おやつや玩具に、皆さん大興奮！
皆さんの反応を、少しだけ不安そうに見守っていた職員も、皆さんのとても嬉しそうな顔を見て安堵しました。
職員も、皆さんの笑顔♪というクリスマスプレゼントをいただき、とても温かい気分になりました。
クリスマスが終わると、年越しももうすぐ。来年も、皆さん一緒にクリスマスをお祝いしましょう！



十一月十四日に通所生活介護のメンバーでバーベキュー外出へ行ってきました。ここ数年は希望が丘の花緑公園が定番となっていました。今年には先に他の団体さんの予約が入ってしまった、新たな場所を探すこととなりました。あちこち検討した結果、会場は栗東こんぜの里パンガロー村となりました。前日に職員が買い出ししたお肉や野菜、そして大量の焼きそばをじゃんじゃん焼いてお腹一杯食べていただきました。場所も広々、屋根もあり雨の日も安心そう。来年も会場はここで決まかな？楽しい秋の一日となりました。



翌月の二十三日はクリスマス会を行いました。昼食の特別メニューを楽しんだ後は通常の日課で、缶潰しや織物をしてもらいましたが、おやつの中にはケーキとプレゼントが用意されました。ケーキを頬張りニコニコ、プレゼントをもらってさらにニコニコと笑顔いっぱいクリスマスとなりました。今回も「歳末助け合い事業」の支援をいただきました。この場をかりて御礼申し上げます。ありがとうございました。

しこのきホーム



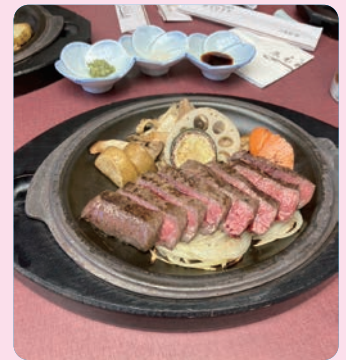
ワクワクが止まりません

十月十七日に久しぶりにホームのメンバーで外出に行ってきました。普段の会話の中で、「食べ物が何が好き？」といった話題になると、皆さんの答えはいつも「肉かなあ」「肉が食べたい」だったので、それなら！大・大・大奮発！をして近江八幡市にある毛利志満に行くことになりました。二階の個室に通されると気分は最高潮、期待も高まります。そして目の前に現れた美味しそうなステーキに大興奮です。各々ビール、ジュースなど、好きな飲み物を頼んで料理を堪能されました。食事が終わると次の目的地へと向かいます。車で一五分程走って近年、滋賀県の新たな観光地として話題になっている「ラ・コリーナ」へと行ってきました。大きな



ラ・コリーナ

「今度はどこへ行く？」等、みなさんの気持ちは次の外出へ。また計画を立てて皆さんに楽しんでいただこうと思います。



ステーキ！

令和七年度 落穂寮 虐待防止研修

毎年、落穂寮では法定研修として権利擁護・虐待防止研修を行っています。今年度は四回にわたりおこなわれました。研修と聞くとお行儀よく座ってお話を聴くというイメージもありますが、今回研修をお願いした講師の岡井里佳さんには全く逆の、実にアクティブな研修をしてもらいました。カードゲーム(アンガーマネージメントゲーム)というものです。興味のある方はお調べください)を取り入れたり、チームに分かれて情報伝達ワークを行ったりと、手を変え品を変え職員の凝り固まった脳を刺激していただきました。



講師の岡井さん
ありがとうございました



情報伝達ワークの様子

虐待がなぜ起きるのか?その原因の一つが相手への理解不足です。利用者さんに対してはもちろん、職員間でも相手への理解が足りないと、それが不平や不満、怒りやストレスに形を変えて自分に帰ってきます。その負の感情を自身の言動に乗せてしまうと虐待やパワハラなどの問題につながります。

相手への理解の第一歩は自分自身の理解です。まずは自分を知る、自分がどのような価値観を持ち、何を大切にしているのか、何が許せないのかを明らかにして、それを自身と関わる人と共有する。そして相手の思いも同様に共有した上で、自身の価値観を相手に押し付けないようにする。このような相互理解と相手を尊重する気持ちが深まれば、そこに虐待の種となる負の感情をなくすることは出来なくてもコントロールすることはできる、ということ

を学ばせていただきました。

今回学んだことを業務に生かし、すべての人が快適に過ごせる環境を落穂の内に作っていきたいと思います。



みんなでカードゲームを使って怒り度の共有

ただ立っている? 鳥が雨宿りしているよ ただ立っている? 小さな花が風で散らずにいるよ ただ立っている? 木陰でだれか昼寝しているよ

木 言

〈寄付金〉
石部南ふれあい広場実行委員会
加屋 隆 士
坂 本 フミ江
中 藪 昌 美
山 本 里 子
湖南市子ども会育成連絡協議会
(敬称略)
社会福祉法人権の木会及び落穂寮の運営にご協力いただいた方に、この場を借りて御礼申し上げます。

今後変わらぬご支援、ご協力をよろしくお願い致します。
ありがとうございます。

令和八年二月末現在

ご協力
ありがとうございます

今年の冬は寒いか暖かいのか、よくわからない天候でしたが、一月終盤と二月半ばには久しぶりにまとまった降雪がありました。高速道路や国道などが通行止めになったり、二月の降雪では落穂の周辺でも久しぶりの本格的なものになり、何年かぶりの雪かきをするようになりました。同じようなタイミングでアメリカでも大寒波が都市部を凍り付かせたそうで、それに対してトランプ大統領が「温暖化と言っていた連中は どう説明するの?」と発言したとか。「地球温暖化」とは言いますが、異常な気温の上昇だけでなく、その結果として異常な低温、異常な多雨・少雨などの気象の極端な変動を引き起こすものです。今年の夏は早くも「これまでも最高の暑さになる」との予測もでており、今から心配になってしまいます。

泉